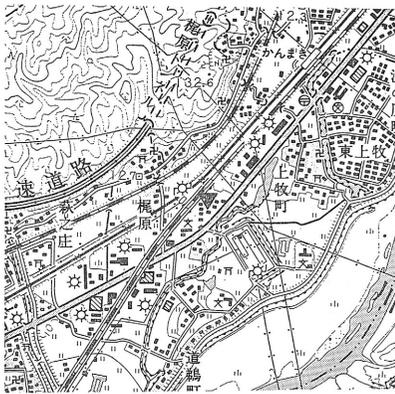


大阪・梶原南遺跡

かじわらみなみ

- 1 所在地 大阪府高槻市五領町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～八月
- 3 発掘機関 梶原遺跡調査会
- 4 調査担当者 富成哲也・宮崎康雄
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

梶原南遺跡は、大阪平野の北東最奥部に位置する。遺跡は北摂山地と淀川に挟まれた氾濫平野にあり、その範囲は東西二〇〇m、南北二五〇mと推定される。一九八三年度より三次にわたって、府営住宅新築にもなう発掘調査を梶原遺跡調査会が実施した。第一・二次調査では、弥生・古墳時代の溝や奈良時代の掘立柱建物を検出し、羽口や鉄滓が出土している。今回の

第三次調査では、弥生時代の竪穴式住居や奈良時代の掘立柱建物・井戸などを検出し、弥生土器や石器類、八世紀に属する土師器・須恵器・木製品・銅製帯金具及び鑄造・鍛造関係の遺物などが出土した。

木簡は八世紀中頃に属する井戸2の底で検出した。この井戸は方形の掘形を呈し、一辺一・三m、深さ一mを測る。井戸枠は隅柱を使用せず、横棧で側板を受ける構造である。上下二段分みとめられ、下段の内法は〇・三五mを測る。伴出遺物としては、ヒノキの火つけ木と少量の土器類があげられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 「新屋首乙売」

228×24×3 091

粗く調整したヒノキ材の片面上半部に記されている。「新」は赤外線カメラによって判明したもので、新屋首は『新撰姓氏録』に記載されていない氏族である。その名からみて、この人物は女性であると考えられる。

梶原南遺跡の西方約一〇kmには式内社新屋坐天照御魂神社が鎮座している。その周辺地域は律令期には摂津国嶋下郡新屋郷であったとされており、新屋首の活動本拠もその付近にもとめられよう。この木簡が梶原南遺跡で出土した理由は明らかでないが、この地と新屋郷との関係をしめすものであろう。木簡が井戸底から出土したこ

と、人名のみ記していること、荷札・付札などの一般的な木簡とは異なり齋串に類似した形態であることなどから考えると、何らかの祭祀に使用した可能性もある。

9 関係文献

梶原遺跡調査会『梶原南遺跡発掘調査報告書』（一九八八年）

（宮崎康雄）

